

第5章 長宮遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

長宮遺跡は、武蔵野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武蔵野段丘面の台地東側をおりた一段低い立川段丘面に立地している。この低位の段丘面には「熊の山」と呼ばれた山林を湧水源とする清水が流れ（現在は排水溝として利用）、幅 100 m ほどの緩い小支谷を形成し、清水の北側左岸に滝遺跡、南側右岸に長宮遺跡が分布する。北東側は荒川低地の沖積地と接し、500 m 南側には福岡江川が流れ、標高 9 ～ 10 m 前後の微高地を形成する。遺跡の範囲は南北 300 m、東西 500 m 以上ある。宅地開発が進むが部分的に畑が残っている。

遺跡の西方には長宮氷川神社があり、この神社の縁起伝承には「長宮千軒町」として繁盛したが、戦国期に壊滅した旨が記されている。周辺の遺跡は、北側に縄文時代早・前期、古墳時代前・後期から奈良・平安時代の遺跡である滝遺跡、南側には飛鳥・奈良・平安時代、中近世の松山遺跡が隣接する。1977 年の保育園建設に伴う緊急調査で中世の屋敷地と思われる遺構

群を検出したのをはじめ、宅地造成などにより 2015 年 11 月現在 51 ケ所で調査を行っている。主たる時代と遺構は縄文時代早期後葉から前期・中期・後期前葉までの集落跡、南側の松山遺跡寄りに飛鳥時代の住居跡、中世末から近世初頭の屋敷跡や長宮氷川神社参道に關係のある溝跡などである。

長宮遺跡第 41 地点の試掘調査および本調査については、ふじみ野市埋蔵文化財調査報告第 13 集『市内遺跡群 12』2014.3 で報告済みのため、本書では割愛した。

II 長宮遺跡第 40 地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2012 年 3 月 28 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡西端部に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は 2012 年 4 月 16 日、幅約 1.5 m のトレ



第 10 図 長宮遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

ンチ2本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。試掘調査の結果、遺構覆土らしき痕を検出したので一部調査したが、風倒木痕であった。その他に遺構が確認できなかったため、慎重工事の措置とした。地表面から遺構確認面までの深さは約70cmである。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

(2) 遺構と遺物

【出土遺物】(第12図1・2)

1は遺構外出土の須恵器環の底部で糸切痕を有し、胎土に海綿状骨針を含む。2は泥面子・芥子面で表面が欠損、重さ2.62gである。

III 長宮遺跡第42地点

(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2012年7月10日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡南東部に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2012年8月3日、幅約0.5×0.5mのグリット4ヶ所を設定し、人力による表土除去と表面精査を行った。試掘調査の結果、遺構・遺物が確認できなかった。地表面から遺構確認面までの深さは約95cmである。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

第10表 長宮遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間()は試掘調査	面積(㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
25	中丸1-4-8	(2007.2.15~16)	1,161	個人住宅	ピット3、縄文土器・石器他	市内3
26	西原2-5-2の一部	(2007.3.28)	594	個人住宅	縄文土器片	市内3
27	長宮2-1-4	(2007.5.30~31)	175	個人住宅	溝、保存措置	市内4
28	長宮2-1-8	(2007.5.31~6.5)2007.6.6~22	188	個人住宅	中近世井戸5、土坑10、ピット13他、縄文土器・石器、中近世陶磁器他	市内4
工事立会	西原2-5-31	2007.10.15	120	個人住宅		市内4
29	長宮2-4-6の一部	(2007.11.20~12.3)12.4~5	618	共同住宅	土坑1、井戸2、堀跡1、溝5、ピット10、縄文土器、中近世土器他	市内4
30	長宮2-4-6	(2009.9.28~11.2)11.4~12.8	1,362.10	老人福祉施設	中近世土坑、井戸、ピット8、溝2、縄文土器・石器、中近世陶磁器他	市内7、8
31	欠番					
32	長宮2-1-18	(2010.1.15~25)2.4~26	271	分譲住宅	中近世土坑20、ピット142、溝3、縄文土器、中近世陶磁器他	市内7、8
33	中丸1-3-2	(2011.5.19~5.31)	534	分譲住宅	縄文時代集石土坑1、土坑4、ピット13、溝3、縄文土器、瓦器、陶磁器	市内14
34	中丸2-2-2,46	(2011.6.27~7.16)11.2~12.1	914	分譲住宅	縄文時代早期炉穴、前期(関山)住居跡1、近世溝、縄文土器他	市内11
35	上ノ原3-1-4	(2011.9.9~26)	1,157.88	分譲住宅	縄文時代炉穴1、土器、石鏃	市内14
36	長宮2-4-3	(2011.10.4~17)10.21~11.14	981	分譲住宅	中近世井戸16、土坑4、溝16、ピット20、板碑他	市内11
37	上ノ原3-6-6	(2011.11.8)	105	個人住宅	なし	市内14
38	長宮1-4-27	(2011.11.24~25)	101	分譲住宅	なし	市内14
39	長宮2-3-23	(2012.2.1)	130.54	個人住宅	なし	市内14
40	西原2-5-7の一部	(2012.4.16)	201	個人住宅	遺構なし、縄文土器片	市内15
41	福岡字丸橋988-1~3,989-2~5,990-3	(2012.4.17~4.25)6.11~7.25	1,152.62	分譲住宅	縄文時代炉穴10、縄文時代前期住居跡6、落とし穴2、土坑27、ピット190、溝4、縄文前期土器片、石器、近世陶磁器	市内12
42	仲丸1-2-24	(2012.7.31)	101	分譲住宅	なし	市内15
43	長宮2-1-72	(2013.2.27~3.1)	231	個人住宅	中世~近世溝2・土坑3・ピット17、土器、磁器	市内15
44	中丸1-3-3,4-5	(2013.5.14~6.24)6.25~7.30	1,329	分譲住宅	縄文前期住居跡1、炉穴6、落とし穴1、土坑15、井戸5、溝9、ピット4、縄文時代前期の土器、石器、中近世以降の陶磁器や板碑	市内13
45	中丸1-3-17,18	(2013.8.7~10)	119	道路築造	溝2、遺物なし	未報告
46	中丸2-22-13	(2013.9.4~10)	488	老人デイサービスセンター	遺構遺物なし	未報告
47	上ノ原3-1-5	(2013.10.10)	330	共同住宅	遺構遺物なし	未報告
48	上福岡3-6-1	(2014.4.2~8)	555	分譲建売	井戸1、溝1、遺物なし	未報告
49	中丸2-2-4	(2014.10.27~8.26)	293	集合住宅	焼土跡5(縄文時代)、遺物なし	未報告
50	中丸1-2-17	(2015.3.16)	228	分譲住宅	遺構なし、陶磁器	未報告
51	中丸2-3-45,46	(2012.4.5)	176	道路	遺構なし、土器片1	市内15



第11図 長宮遺跡遺構分布図(1/2,500)

IV 長宮遺跡第 43 地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2013 年 2 月 12 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡西部に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は 2013 年 2 月 27 日から 3 月 1 日まで、幅約 1.0 m のトレンチ 3 本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。試掘調査の結果、遺構覆土らしき痕を検出したので一部調査した。その結果、土坑 3 基、ピット 17 基、溝 2 条であった。地表面から遺構確認面までの深さは約 70 cm であり、30 cm の保護層が確保できるため、工事立会の措置とした。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

(2) 遺構と遺物

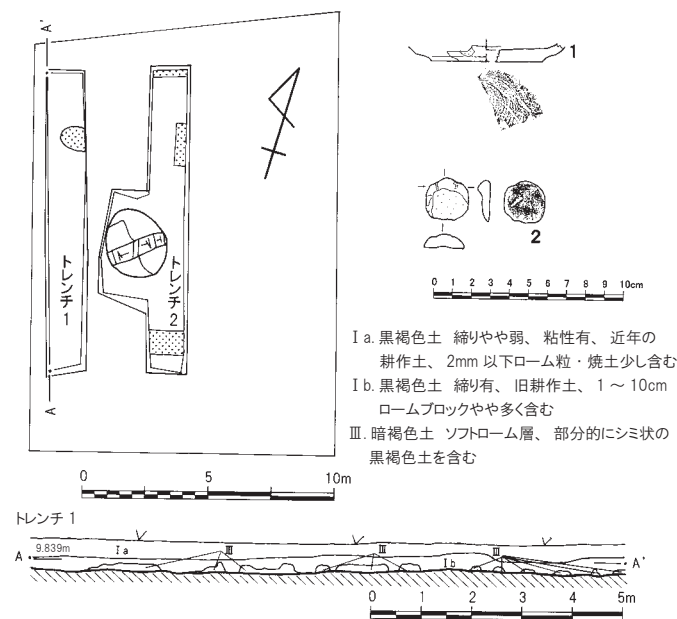
【土坑・ピット】土坑 3 基、ピット 17 基検出した。浅い方形もしくは長方形の土坑である。規模は第 11 表を参照。

【溝 1・2】溝 1 は調査区南側で東西方向に延びる。断面 V 字形を呈する。溝 2 は調査区西側で南北方向に延びる。長宮氷川神社とその参道に沿う一連の溝群で、第 11・13・14 次と資料館調査区の調査で検出した溝と連なる。溝の断面形態は西側の道路に向かって緩やかに傾斜し、底部で深くなる薬研状を呈する。西側の立ち上りは道路へ延び、危険なため確認していない。規模は第 12 表を参照。

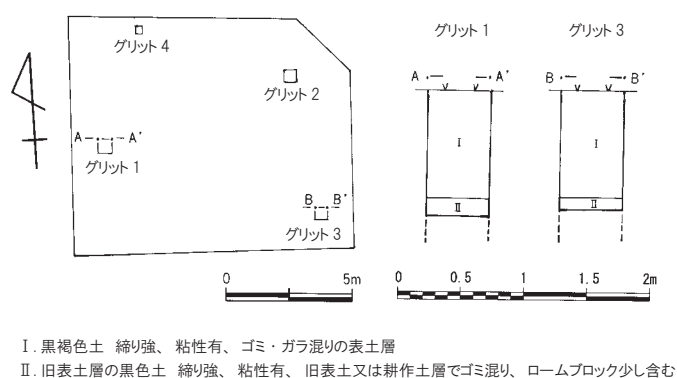
【出土遺物】(第 14 図 1～4)

1 は地文無節縄文に幅広の磨り消し、2 は地文 RL 縄文で沈線間を磨り消す。3 は磁器の碗で推定口径 8.0cm、轆轤成形に外霊芝・内飛竜文の染付けを施す。4 は緑泥片岩で板碑の破片とみられるが銘文等はみられない、重さ 961.29g。1・4 は溝 1、2 は遺構外、3 は溝 2 出土である。

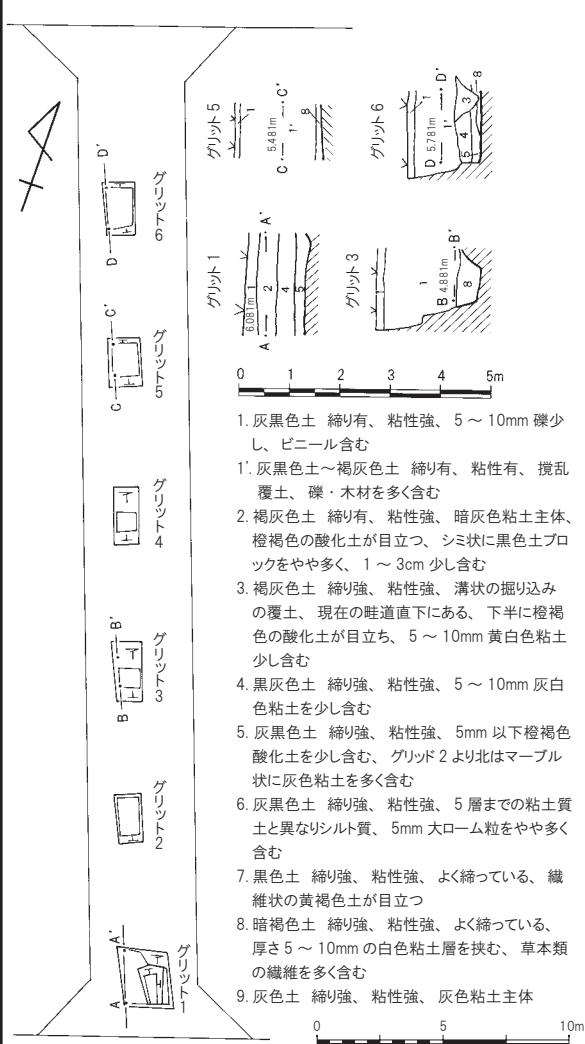
40 地点



42 地点



51 地点



第 12 図 長宮遺跡第 40・42・51 地点遺構配置図 (1/300)、土層 (1/150・1/60)、出土遺物 (1/4)

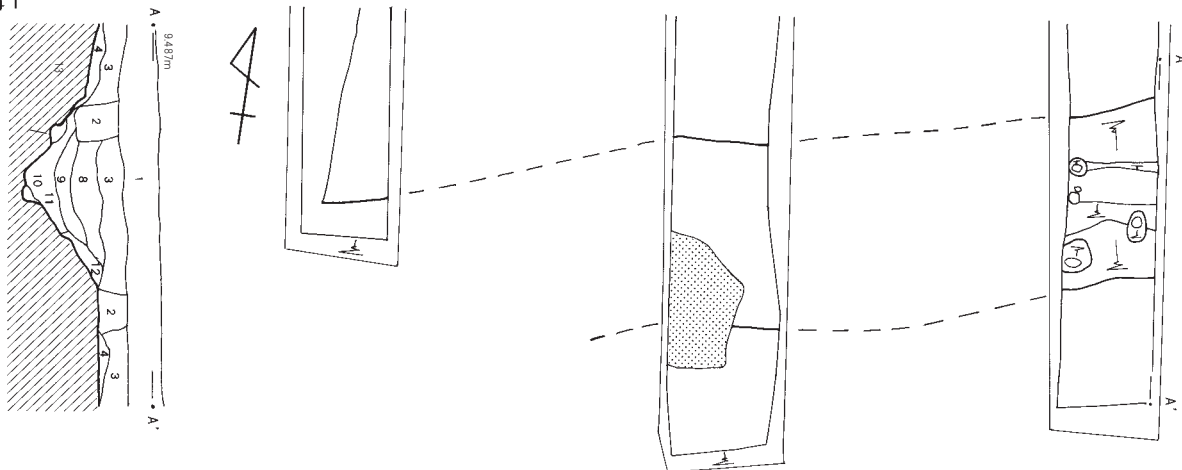
第 11 表 長宮遺跡第 43 地点土坑・ピット一覧表 (単位 cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
土坑1	(方形)	155×(126)	136×(124)	27.6	
土坑2	(長方形)	115×87	97×(72)	35.3	
土坑3	(長方形)	106×(66)	82×(52)	11.8	
P1	不明	30×(6)	10×2	22.9	
P2	不明	34×(26)	16×12	27.5	
P3	方形	29×21	16×10	47.6	
P4	方形	20×17	10×8	33.4	
P5	方形	19×13	7×5	11.8	
P6	方形	27×26	8×4	31.0	
P7	槽円形	42×28	11×11	55.4	
P8	方形	45×32	12×9	25.2	
P9	不明	26×(11)	12×7	38.6	
P10	方形	45×38	13×8	57.1	
P11	不明	40×(25)	17×13	28.3	
P12	長方形	60×40	9×6	51.3	
P13	方形	27×27	14×11	29.3	
P14	不明	146×(23)	37×(3)	47.9	
P15	方形	32×27	17×17	51.2	
P16	不明	34×(25)	(15)×(15)	71.4	
P17	不明	30×(15)	12×(10)	60.5	

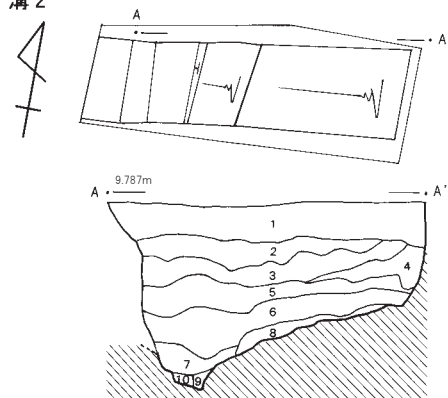
第 12 表 長宮遺跡第 43 地点溝一覧表 (単位 cm)

No.	断面形態	上幅	下幅	深さ	備考
溝1	V字形	174~186	34~39	76.1	
溝2	薬研状	104~128	82~94	195.5	

溝 1



溝 2



溝 1・P9・14

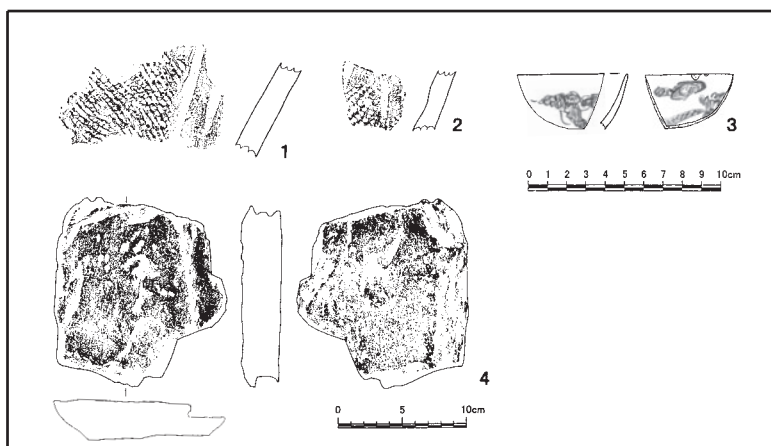
- 表土 黒褐色土 締り弱
- 攪乱 トレーチャー・耕作土 黒褐色土 締り無、5mm 以下ローム粒多く含む
- 耕作土 締り弱、黒褐色土、1mm 以下ローム粒少し含む
- 地山 ハードローム
- 黒褐色土 締り弱、1mm 以下ローム粒極少し含む
- 褐色土、締り有、ローム粒と暗褐色土の混合土
- 黒褐色土 締り無、3mm 以下ローム粒多く含む
- 黒褐色土 締り弱、1mm 以下ローム粒少し含む
- 暗褐色土 (やや灰) 締り弱、3mm 以下ローム粒やや多く、灰色土ブロック混入
- 暗褐色土 締りやや有、3mm 以下ローム粒多く含む
- 暗褐色土 締り有、3mm 以下ローム粒多く含む
- 黒褐色土とロームブロックの混合土 締り弱
- ロームブロック主体 締り弱

V 長宮遺跡第 51 地点

(1) 調査の概要

調査は市道敷設に伴うもので、ふじみ野市より 2012 年 2 月 3 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲外に位置するが、遺跡範囲を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は 2012 年 4 月 5 日、幅約 1 × 2 m のグリット 6 本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。試掘調査の結果、遺構・遺物が確認できなかった。地表面から遺構確認面までの深さは約 160 cm である。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。



溝 2

- 表土 硬く締る、ガラ・ゴミ含む
- 暗茶褐色土 硬く締る、3mm 以下ローム粒多く、焼土粒・炭・粘土粒少し含む
- 暗褐色土 締り有、1mm 以下ローム粒少し、3mm 以下粘土粒極少し含む
- 褐色土 締り有、3mm 以下ローム粒極多く含む
- 暗褐色土 (3 層より暗い) 締り有、1mm 以下ローム粒極少し、5mm 以下黒色ブロック少し含む
- 褐色土 締り有、1 ~ 15cm 大ロームブロック極多く含む
- 黒褐色土 締り有、5 ~ 15cm 大ロームブロック極多く含む
- 褐色土 締り有、硬い
- 褐色土 締り有、硬い、やや粒子粗い、水成
- 黄褐色土 締り有、ロームブロック主体

第 14 図 長宮遺跡第 43 地点溝 (1/80)、出土遺物 (1/4・1/6)



長宮遺跡第 51 地点調査風景